

さあ、今年も11月です！11月は「福岡市読書フォーラム」があります。今年も21日（土）、22日（日）にあいれふで行われます！図書館は22日に読書相談と絵本の展示・よみきかせを行います。このメールマガジンが皆さんのもとに届く頃にはフォーラムも終わっているかもしれません。来月号では、少しでも当日の雰囲気をお伝えできればと思っています。今月は私たち図書館員がフォーラムで展示する「図書館員が選んだ100冊のえほん」の中から1冊ご紹介させていただきます。

『あおくんときいろちゃん』

レオ・レオーニ 作 藤田 佳雄 訳 至光社 1260円 絵本

<お勧め年齢>

幼稚園★★★ 小低学年★☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

ぱぱとままがるすのあいだに、とおりのむこうにすむともだちのきいろちゃんをさがしにでかけたあおくん。あちこちさがして、まちかどでやっときいろちゃんを見つけました。ふたりはうれしくてうれしくて、とうとうみどりになってしまいます。ところがあそびつかれていえにかえると、あおくんのぱぱとままも、きいろちゃんのぱぱとままも、みどりをみてふたりだとわかってくれません。かなしくてなきだすふたりですが、そのなみだがまたあおくんときいろちゃんになり、ぱぱとままもおおよろこびしました。

ちぎったかみのようなかたちのいろだけの本です。おはなしといっしょにきれいないろとたのしいかたちもたのしんでください。

<子どもに手渡すときのポイント>

「図書館員が選んだ100冊のえほん」は第1回読書フォーラムの時に冊子として作っていただき、今回のフォーラムや総合図書館、各分館のカウンターで皆さんにお配りしています。大人が絵本を選ぶ必要があるのか？子どもが好きな絵本でいいんじゃないの？という声も耳にすることがありますが、私たち図書館員は子どもには大人が選んだ絵本を手渡したいと考えています。東京子ども図書館の松岡享子さんはその著書『えほんのせかいこどものせかい』の中にこう書いていらっしゃいます。

『絵本の果たすべき、もう一つの大きな役割がここにあります。子どもたちに、ただものごとを絵にして示すだけでなく、それを、美しい、たのしい、しっかりした絵にして示すことによって、子どもたちの目を、美しいものの見える、しっかりしたものの見方のできる目に訓練していくということです。』

1冊の絵本を手にとって、その絵本がこのような絵本に値するのか？それを考えるのが私たち大人の役目ではないでしょうか？そうやって選ばれた絵本は、ただその時を

楽しくするばかりではなく、その子の人生の中で本当にその子を勇気づけ、人生の素晴らしさを教え続けてくれるものです。

たくさんの絵本の中から、私たち図書館員は未熟ながらも子どもに手渡したい 100冊の絵本を真剣に選びました。一度だまされたと思って、この 100 冊の絵本を静かな心で開いてみてください。絵本の持つ本当の素晴らしさを実感していただければと思います。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか